

## 相違点から見つけられた素晴らしさ

熊本県立熊本北高等学校 1年 栗野 幹大

「狭い日本、ましてや九州、隣県熊本。何も相違ないだろう。」少なくとも4か月前の私はこう思っていた。

私は父の仕事の都合で、とある隣県から引っ越してきた。とは言うものの、出身は熊本、特に何も考えずに引っ越してきた。しかしどうだろう、新生活1日目からおどろくべき光景を目の当たりにした。信号のない横断歩道の前で、小学生を渡らせるために、走っていた車が止まったのだ。それだけではない。その小学生は横断後、ドライバーに向けて頭を下げたのだ。あのような光景は生まれて初めて見た。まず、車が止まってくれるという感覚自体、私にはなかった。さらに頭を下げるという行為はなおさらだ。この出来事から数週間後、「道を譲ってもらったらお辞儀をしましょう。」という指導を学校の先生が行っているのを聞いた。このように、感謝することに対してまで指導が行き届いていることにおどろいた。

先日、友達に車に対してお辞儀しましょうなどの指導をいつから受けていたかを聞いたのだが、幼稚園の頃から教えられていたという。教わったことを次は自らが伝えていくというサイクルの確立により、現在全ての人々の習慣となっている。これらは熊本に生きる人々が大切につないできて、私達が大切に伝えていかなければならない「心」だと思う。

他にも地域の方々が温かい。通学時に「おはよう。気をつけて行ってらっしゃい。」「おかえり。今日もお疲れ様。」など、たくさんの方から声をかけてもらう。朝から今日もがんばろうという清々しい気分になるし、挨拶を返すと微笑んでくれて、とても良い気分になる。

また、私達の校外での様子に対して、指導を受けるということがあった。しかし、それは私達の問題点を見つけ、知らせ、改善させようと声をあげてくれていると感じた。地域の方々からの意見が多いということは、それだけ私達のことを気にかけて見ていただいているということであると同時に、距離感の良い関係性であるとも言えるのだ。

なぜここまで人々が温かいのかと考えたときにあげられるのは、助け合い、励まし合うという心を大切にされた教えを受けてきたということだろう。それに加えて過去の辛い経験がそれらをより一層強くしていると思う。今までも人と人のつながりを感じる場面が多くある。共にがんばろう!!などと書かれたポスターを見たりすると、心温まるものがある。また、それも乗り越えたということが糧となって生きる原動力になっていると思う。

引っ越してまだ4か月だが、多様な場面から相違点を見つけられた。素晴らしい習慣のサイクルを学ぶことができ、人の温かみを心から感じられて、毎日楽しく過ごせている。そして何よりも「楽しい」と思えるような町や地域、人々がいるということこそが、熊本の財産だと思うし、一番の良さだと思う。